

2026 年度後期小論文模範解答

タイトル：陰影の美と調和する建築のあり方

課題文で筆者は、日本の伝統的な建築が木や障子を通した柔らかい光や静かな陰影によって人々に精神的な安らぎをもたらしてきた一方で、コンクリートで覆われた現代都市がそうした精神的深みを失っていると指摘している。この問題提起を受け、私はこれからの日本の建築のあり方について、効率性や利便性のみを追求するのではなく、風土に根ざした光と影の調和を取り入れ、住む人の心に寄り添う空間を構築することが不可欠であると考え

る。

現代の都市開発や建築技術においては、ガラスやコンクリートといった耐久性の高い素材が多用され、空間の明るさや利用効率の高さが最優先されてきた。確かにこうした工学技術の発展は、耐震性や利便性を向上させ、人々の安全な生活を支える上で欠かせないものである。しかし、均一で明るすぎる空間は、過剰な刺激を生み、課題文にあるような深い静寂や安らぎを人々の生活から奪う要因にもなっていると思われる。

だからこそ、これからの工学や建築設計には、現代の構造技術と伝統的な知恵を融合させることが求められる。単に古い建物を再現するのではなく、建物の配置や窓の取り方を工夫して自然光をやわらかく取り入れたり、素材の質感を活かして落ち着いた影を作り出した

りすることで、都市の中にも自然と調和する穏やかな空間を生み出すことが可能になる。このように、これからの日本の建築は、単なる効率的な構造物にとどまらず、自然の陰影を生かして人間の心に落ち着きを与える空間でなければならない。私は大学での工学の学びを通じて、安全で快適な技術を基盤としながらも、人々の心に安らぎを提供する空間づくりに挑んでいきたい。(722 字)